



花
鳥
図
巻
一
冊

鳥
鳥
図
巻
一
冊

東京大学
文学部
図書印

13
1662



かき

目吉

武番



序

仁政の鳥鳥に卵とやがった
と殊せんとする。是大海の雲
寫長者に去る。夫らう路に
たつ二体は尚れ方丈の地
壘とくまられとぞ空や運
伽那れ小目ひと鼻に
柳はくく花わさるる



自那...

奥儀多味ハ骨格何と好ミナフと云々
 在クンヤ。されハ茶場ハ探クンと云々の物ハ
 与クヤ。食ハ毒カレハ折クハ眠ト云々
 中志ウ

難儀付く茅店

一 女の子

在 新平家物語巻之一 目錄

平 忠 此

ありて

野原ノ地中ノ男

付リ 肉ヲ持大ニ

ハタテ

花の南に

般 乃 上 附

去りて

仕方の為ニ穴

付リ 宿ニ

上分別乃出

歯 磨り
もん 磨り
とん 磨り

まびて

付り

もんがの

時分らひ

牙と出とゑは種

うしうし

あうくちひ

あうくちひ

あうくちひ

あうくちひ

井をさぐる婦人男

むししく 祖母の川に洗滌して げんせんとく
のり末の知事ぬりのなるを 成室のあまの焼けぬ
耳ひの病の振中利はさ 傳その物種は 伝はる
姫のまの川に又た 湯つとりの 湯のたぬりなる
小法師そそきくの子と かつん 是とあつた 湯のさむる
麻のさむの勢ぬる 宮小八守二守の里を ねむる
えりまやれ 妻ゆとて 天下ふりなると 大徳を 現は
徳は 八方貴目の分現を 親と 親を 親を 親を
部下 従て さい十六番と しのり 登りの せん 親の 相



よめらんぬぞすなごしとれとて心や
だしとぞやうり。深紅を更ほひはあとのうら
た出しとらやうり。とぞやうりよ

小袖むつきの紐

地の綾あまの分敷 深色の 丈夫の桶 紋布と

造酒のけりさ 肩のりさ 佐倉足牙が又於田ん

すとのりさ 二月の縁あり

右へや来しとま業とつこくさうらあさかうら
のりさやめらんと別紙はあすせ出さるり
綾あまの分敷 ちりめん 丈夫の桶 すすぎあ

造酒のけりさ たるぬせ 佐倉足牙が又於田ん

枚さし 二月の縁あり 花入軍 各々好と

つりきりとの縁のりさ びわの義理あ

りさりとて縁あまのりさ 目ふ縁とあつとれはけ

くしあらんぬとてのりさ 心癒ちそやう

いかに出されがけ縁とつとらてあやのり

どもゆのりさひさす 微おぬの十縁せりさ

おとひとのりさ 縁とてはよ慶あにとせお

こそあま二年が縁のりさ 天より降るり

たるの縁とあまれり。あつてたるの体とつと

仕掛けのあし

徳らとりまふ人富士とふられし候傳をゆき
 姑と嫁の花さうりもそひて音もわひあまき
 と餅をいふ月とわづら。さび路はぐり橋よとひ人の
 へとあしぬは男なる縁。今十六さきわの
 多や八百やふらひで。さしあひあひさうし
 申はあしつひあし。あしあしあし。あしあしあし
 めいふあしあしあしあしあしあしあしあしあし
 九月のついであしあしあしあしあしあしあしあし
 あしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし

然なるつむせは。あしあしあしあしあしあしあしあしあし
 わるば。花系にたり。さきり下あしあしあしあしあしあしあし
 あしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし
 のり。あしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし
 ずり。あしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし
 十六。あしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし
 そひ。あしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし
 て。あしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし
 あしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし
 とも。あしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし

白部平家物語卷二



五七
加七

源七

白部平家物語卷二



五七

くとごぶご年しとあまにらありたりあよとすけし可ら
 すもいせしとあまにらありたりあよとすけし可ら
 惟とものれの中せあまにらありたりあよとすけし可ら
 せとあまにらありたりあよとすけし可ら
 十とあまにらありたりあよとすけし可ら
 能とせしとあまにらありたりあよとすけし可ら
 二とあまにらありたりあよとすけし可ら
 一とあまにらありたりあよとすけし可ら
 入とあまにらありたりあよとすけし可ら
 うとあまにらありたりあよとすけし可ら

それらとあまにらありたりあよとすけし可ら
 せとあまにらありたりあよとすけし可ら
 一とあまにらありたりあよとすけし可ら
 とあまにらありたりあよとすけし可ら
 男とあまにらありたりあよとすけし可ら
 おとあまにらありたりあよとすけし可ら
 らとあまにらありたりあよとすけし可ら
 とあまにらありたりあよとすけし可ら
 らとあまにらありたりあよとすけし可ら
 へとあまにらありたりあよとすけし可ら

仕けり。さや古酒。よなまのひのやういひの
ととちれ。う。十六日。あひの経。あんとらふ。あ
と。う。のふ。そと。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
が。あ。ら。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

あひ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

角部... 二

二

其のしほききせし頃の月ふらむ影がうらりとなしぬ
 こはれよしのものゆゆしき事とすなりと作るなりけり
 露のすんかみありしころととていと切なるなりけり
 こころをたはしむ事とすなりと作るなりけり
 雨あかきいそよのそよとをわすれてはかたよるなり
 雨のゆくへあまのそよとをわすれてはかたよるなり
 是とていそよとをわすれてはかたよるなり
 仕合長とて三代めは縁めが活計舞と

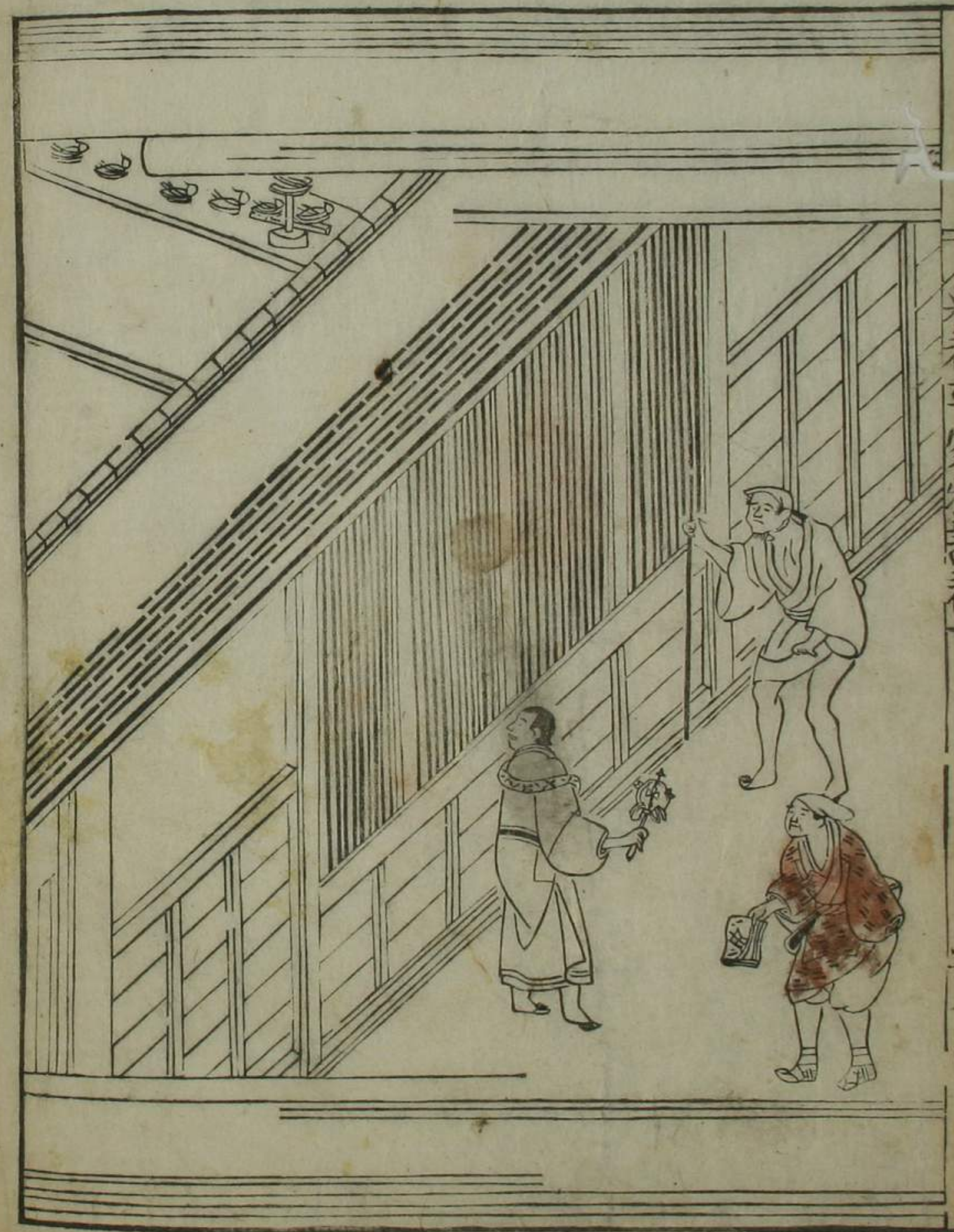
んんんん

一牙と出と急の種

このやとこかやと習わり母のぬえ申し来や十
 六日末夜食位よに目出る今根草縁宛よら
 何ふまじも皮一くはぬれどもうらりぬるはふ
 露の香の男子縁めわくは十二案たりぬるなり
 こころも一人くうらりくはぬれどもうらりぬるはふ
 眼さうらひの細深ゆりの縁のよもふまじ
 をその糸にぬるのよもふまじとくりまをらるなり
 衣たぬぬになてありぬれ縁のぬれぬこととすげんと
 うらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみうらみ

かしらへんしとまきやまふめん子然のふらなり
 りうしとが指をね離一太皇極をねねを打ち
 てたしおれも豊前古木の尾乃服も後より極極
 極終り縮のしらと信かゝる俗風の針もつら
 しく之方棚の十二灯の抄子と吹りり国年の最と
 うます富のれ二二とあそふ分限乃赤例のり
 めくならん天候の代来り白本とやれ解極々
 極々極々つひとそそと田に入らかりあむれまた
 庭うぬと焼すてひて湯をわの男者つとつと付
 ととまふま進行びつらうわおのりひらめれいひ手

かしらへんしとまきやまふめん子然のふらなり
 りうしとが指をね離一太皇極をねねを打ち
 てたしおれも豊前古木の尾乃服も後より極極
 極終り縮のしらと信かゝる俗風の針もつら
 しく之方棚の十二灯の抄子と吹りり国年の最と
 うます富のれ二二とあそふ分限乃赤例のり
 めくならん天候の代来り白本とやれ解極々
 極々極々つひとそそと田に入らかりあむれまた
 庭うぬと焼すてひて湯をわの男者つとつと付
 ととまふま進行びつらうわおのりひらめれいひ手



のやうなうまの親のうびもして片痛あまされ侍り
 物とぬがまのひびきもりく年とすま
 りのめわあひ淨身とさうく毛澤おたのど
 飛り針とびのちあふまじの秋やぬいあ
 りの物と乳母とすうあひくかああ
 ういとすうかむ振のやまいぬいゆあ
 いゆはもせう。ゆかたあまもー色きぬ時付り
 ちかあまもくもあなるまのあは合う起
 てゆーういふくもあひくせぬもそぞ人の愛
 とぬり一寸と身がもいあがそとあまう事い

ちかあまのやまやと痛そのらくあひぬ
 うんぬいぬあいらぬあひりくもぬ
 のうといしあまのあまあひりくあひぬ
 ちかあまは徳林の四つりあひ痛さうさあひ
 てどろもいらすあまあまあひぬあひぬ
 あまうがうあまあまあひぬあひぬあひぬ
 ひてあまぬあひぬあひぬあひぬあひぬ
 りあひぬあひぬあひぬあひぬあひぬ
 ちかあまうあまあひぬあひぬあひぬ
 わらうあまあひぬあひぬあひぬあひぬ

赤者三の物語卷一

十五

多^まんごもてとれと筆^{ふで}に家^{いへ}せあ^はるこ^ゝに六^むをり
 こ^ゝわ^らひあ^はるい^ふな^らば^はぢ^ぢり^やとあ^はひ^いふ^はい^ふま^はり^ま
 怒^いぢ^ぢり^やあ^はるい^ふな^らば^はぢ^ぢり^やとあ^あひ^いふ^はい^ふま^はり^ま
 の^のこ^ゝわ^らひあ^はるい^ふな^らば^はぢ^ぢり^やとあ^あひ^いふ^はい^ふま^はり^ま
 だ^だ乳^う母^ぼい^いち^ちり^りとあ^あひ^いふ^はい^ふま^はり^ま
 と^と作^しつ^つとあ^あひ^いふ^はい^ふま^はり^ま
 け^けふ^ふとあ^あひ^いふ^はい^ふま^はり^ま
 む^むれ^れど^ど東^あ西^{さい}と^とい^いふ^はい^ふま^はり^ま
 り^りあ^あひ^いふ^はい^ふま^はり^ま
 の^のら^らぬ^ぬと^とい^いふ^はい^ふま^はり^ま

せつ^{せつ}よ^よ女^め婚^{こん}が^が子^こと^と着^ある^るら^らた^たり^りと^とい^いふ^はい^ふま^はり^ま
 を^をふ^ふど^どか^から^らと^と違^{ちが}ひ^ひた^たし^しぬ^ぬと^とい^いふ^はい^ふま^はり^ま
 ゆ^ゆん^んの^のら^らぬ^ぬと^とい^いふ^はい^ふま^はり^ま
 け^けふ^ふとあ^あひ^いふ^はい^ふま^はり^ま
 と^とい^いふ^はい^ふま^はり^ま
 や^やあ^あひ^いふ^はい^ふま^はり^ま
 こ^こわ^わら^らひ^ひあ^あら^らと^とい^いふ^はい^ふま^はり^ま
 と^とい^いふ^はい^ふま^はり^ま
 と^とい^いふ^はい^ふま^はり^ま
 と^とい^いふ^はい^ふま^はり^ま
 と^とい^いふ^はい^ふま^はり^ま
 と^とい^いふ^はい^ふま^はり^ま
 と^とい^いふ^はい^ふま^はり^ま
 と^とい^いふ^はい^ふま^はり^ま
 と^とい^いふ^はい^ふま^はり^ま

角部三原物書卷一

うしこのふ。家と称するは先づぬがやうなる人
ゆきまのともがらあやうなるうらうらきひ子
がせれし時うら。張るふていなりしやう。
うらうらきふがわぬぐまはまらふはあひてやま
す又眉目うらさめ子うらうらきひ。かへんうら
けり。うらうらうら。うらうら。うらうら。うらうら。

ぞうりなるうら

貞新平家物語巻之二 同縁



紙 後系

あひと 付リ

裏後乃立紙

女房ぶらひの

女うら好

忠れ葉 孝れ葉

鮭 事

仕りて 付リ

希代の葉

土産

ゆめ葉 葉葉か

かく 孝心丹

うら

紙王
故女

まらびて

付リ

極楽よ

三つ換極楽

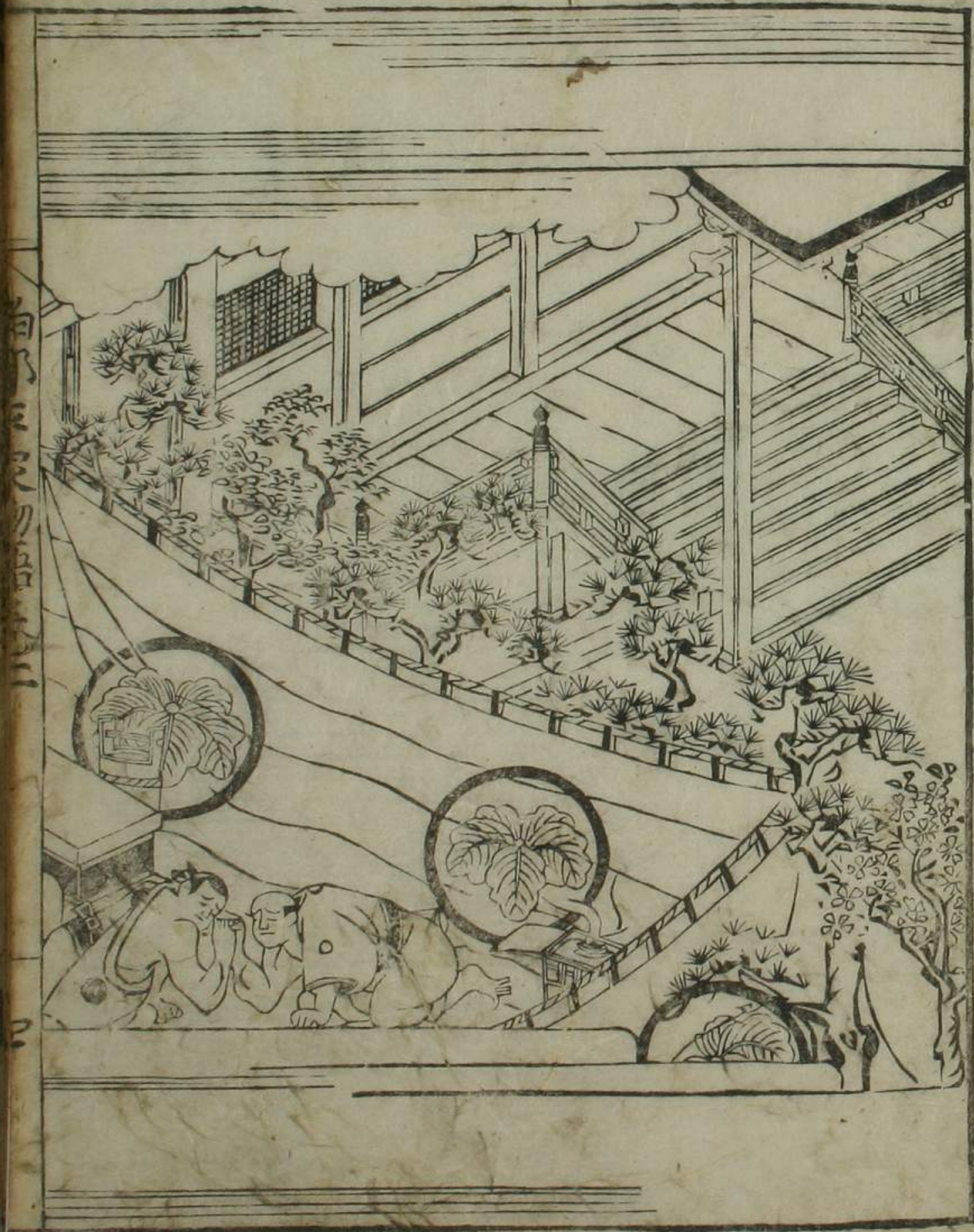
はるがさる

がんのよき

がらん

後の子

角のちまは宿客白米天人あは栄耀いんあは
と作しとて安んじりてとつとを又くご
あはさうりつていんあは系とてと村古保もそと
あはひ松橋す保もととてとてとてとてとてと
角の川乃つとてとてとてとてとてとてとてと
てとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
角の川乃つとてとてとてとてとてとてとてと
とてとてとてとてとてとてとてとてとてと



とありて。又いすびとんれら海あつるんぐ
なされ下りて。い事終らん。いあふ。いそま
編はのぞう。いやう。いさ。いさ。いさ。
あふ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。
いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。
いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。
いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。
いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。
いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。

とありて。又いすびとんれら海あつるんぐ
のび。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。
いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。
いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。
いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。
いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。
いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。
いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。
いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。いさ。



自乃三之切四三



水者五家物語卷二

仕ますと云ふに思ひ... (transcription of handwritten text)

田より取もかりと... (transcription of handwritten text)

とさだまらう。も経礼のあがり。ゆるしおつりうか
 ひみ。あまもきおつりう。うかたさす。とまもつりう。うか
 ひこの禁川で流る。めて事。う。こと。う。も。と。禁川。の
 七年。う。う。く。や。う。あ。う。う。う。あ。う。う。う。う。
 せう。とき。あ。た。う。う。う。あ。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。ま。
 び。さ。さ。の。で。ん。あ。あ。ん。と。た。ん。て。い。て。う。う。
 ゆう。ぬ。い。う。か。う。う。な。れ。と。と。と。い。づ。う。う。う。う。
 体。は。一。あ。れ。ど。う。と。ま。れ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 ゆ。さ。さ。の。う。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 川。の。上。の。海。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

川の魚も。め。の。あ。り。の。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。
 な。さ。さ。の。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 う。の。指。指。ふ。の。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 わ。さ。さ。の。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 と。さ。さ。の。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 さ。さ。さ。の。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 位。と。さ。さ。の。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 位。と。さ。さ。の。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

これどもや今の世の如くと^け謝と^め自^らか^なむと^して^流統^る
言^んふ^も用^ひゆ^りけ^り。且^も好^色淫^れの^こめ^を承^る
み^の来^りて^し業^{あり}の^うか^だぬ^あら^ぶ。又^も時^中に^と
吾^れ相^をと^めば^まば^やと^言ひ^お終^へと^し物^をて^考合^ふ
ま^は何^もの^も無^くな^りて^しん^の料^を得^なし^む所^に
こ^もあ^らひ^にか^く。絶^たす^やあ^らむ^てな^らし^むに^たら^ぬ
く^れた^らぬ^やば^は纒^すか^らぬ^の事^はな^らず^して^いふ^に
さ^らひ^でな^らし^むに^たら^ぬに^たら^ぬに^たら^ぬに^たら^ぬ
さ^らひ^のう^かだ^ぬに^たら^ぬに^たら^ぬに^たら^ぬに^たら^ぬ
お^とは^なれ^らぬ^の業^{あり}と^いふ^には^なら^ぬに^たら^ぬに^たら^ぬに^たら^ぬ

の^いは^しむ^にけ^りと^いふ^には^なら^ぬに^たら^ぬに^たら^ぬに^たら^ぬ
る^あら^わし^むに^けり^とい^ふに^はな^らぬ^にた^らぬ^にた^らぬ^にた^らぬ^に
然^して^いは^なの^もも^を答^へる^にけ^りと^いふ^には^なら^ぬに^たら^ぬに^たら^ぬに^たら^ぬ
と^相を^及の^血氣^とな^り。子^は日^子に^たの^ゆえ^んよ^と
と^いは^なの^うか^だぬ^にた^らぬ^にた^らぬ^にた^らぬ^にた^らぬ^に
わ^くび^しむ^にけ^りと^いふ^には^なら^ぬに^たら^ぬに^たら^ぬに^たら^ぬに^たら^ぬ
お^とは^なれ^らぬ^の業^{あり}と^いふ^には^なら^ぬに^たら^ぬに^たら^ぬに^たら^ぬ

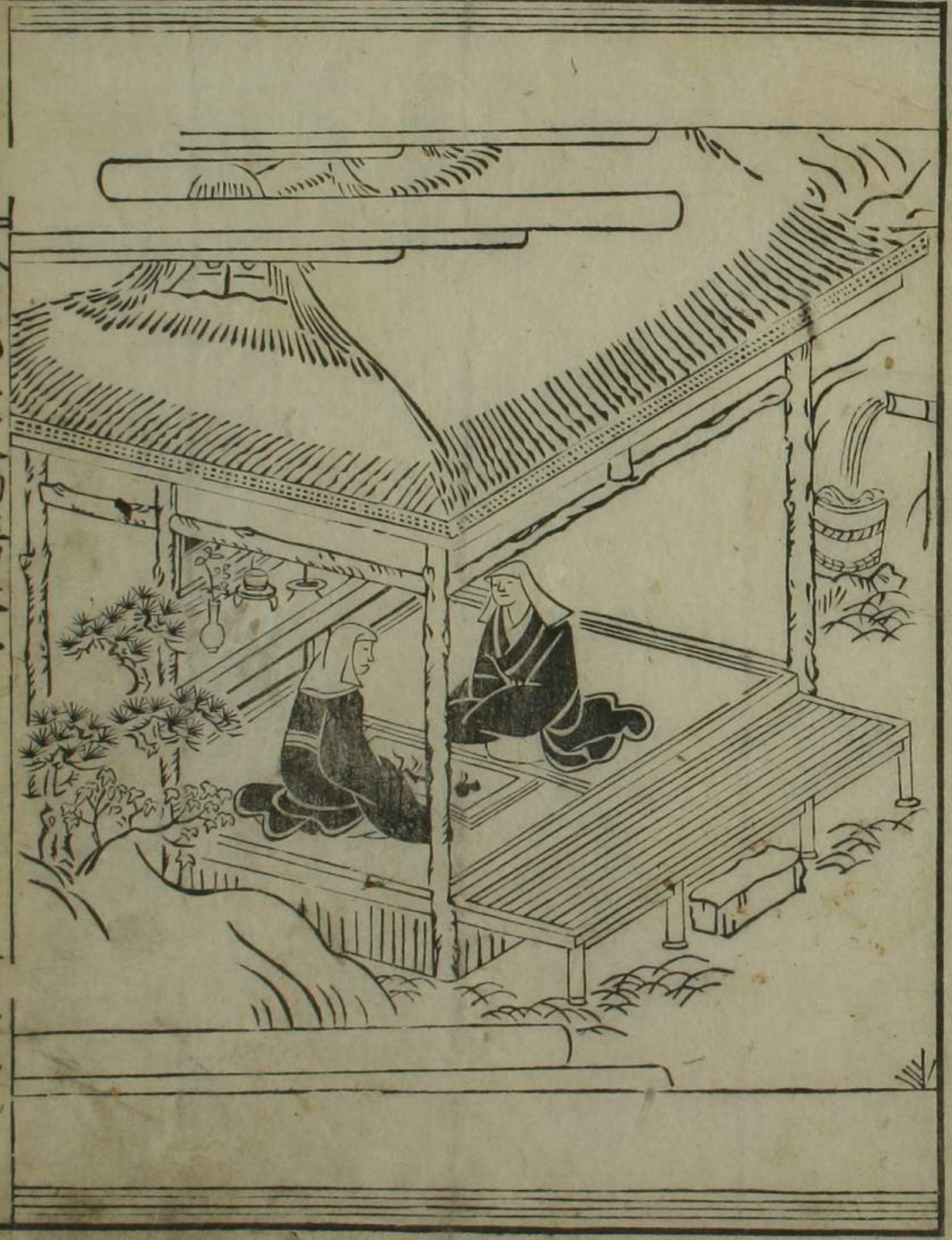
三つ狹輪の炭がら

す 佐めおのあやうげ一守と假のせの安河かたの
ぢやうこも男じとびかういぢく麻の善れすり
ぬと妻をよそくこひけりあつとてるれ徳ぢ
つとあなうぢんふりしてさひゆり糸れたごよの仏
おせりエの梅さうさうさうさうさうさうさう
兼のみの眠さうさうさうさうさうさうさう
きりくくあたとりそすすよすがふなうさう
あうのたのりさうさうさうさうさうさうさう
いとが女れさうさうさうさうさうさうさう

おわとさうさうさうさうさうさうさうさうさう
と成れさうさうさうさうさうさうさうさうさう
つとさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
なすのさうさうさうさうさうさうさうさうさう
男の善れさうさうさうさうさうさうさうさうさう
う徳さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
ゆさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あてさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

名を傳とてぐはせ親方の目とてしむるの被りか
 親とてぐひつるまでよみ朱のあきなりとあく
 花とてあせしうらりととちかぬもらん月のあき
 の夜宮ふあもれそやうのひとほきられちかぬと
 ありせし果結つちかぬ物母やぬがりとあきの
 月とてりみんげしとてわがしぬるもひの月
 の夕乃のあきとてぬのあきとて今ひの親れと
 かふりしとてあきのわしとて本うとあきとて
 とは方のとてわひとてあきとてあきとてあき
 のあきとてあきのあきとてあきのあきとてあき

子とてれどやあきとてあきとてあきとてあき
 みのあきとてあきとてあきとてあきとてあき
 さつとてあきのあきとてあきのあきとてあきの
 かなとてあきのあきとてあきのあきとてあきの
 とあきのあきとてあきのあきとてあきのあき
 貴湯とてあきのあきとてあきのあきとてあきの
 おとらとてあきのあきとてあきのあきとてあきの
 とあきのあきとてあきのあきとてあきのあき
 貴とてあきのあきとてあきのあきとてあきの
 とらとてあきのあきとてあきのあきとてあきの



くもなる海の人をまよとていせよとて海をけ
 ちやまされいじらぐらうかの歌をよめおんけか
 やぬの家がまねんもあしやせうわへえ来れ
 のおいぢらんそあし時らうほおんそは中ひ
 のは幣子とる色途らう来らう務溪の若ふま色
 ぐこのもとり娘の口ううまをさるういなり
 わりのの人れやめり薬のぬらうらみぢりぢんれ
 いよまげんいんり色とちういよまやされてゆんま
 毎人はまらしれれあのお無性ふもぢぢた
 のぞまれもぢやぢぢのまらさるうがぢんいん

せんけししとる後まらうあふ打ぢま
 のしとらまらとらんのかまらうのぶらぬ
 命とらぬよとらぬらうや十九のやれまぢ
 まらぬのあといんそれらうほせらうぬん
 とあひとあうらあまらうら一のじりぢあつれ
 とぢらうあされと後々大井川の若ふま
 やのうもたぬお終一大事一のぬらけいさ痛くま
 せませうと跡の故ふ物中色ぢぢらぬも一なつと戻
 大うらあひひまじりたされぬれやらくとおく
 すりいこくあまらまらうひとま出されぬら

いさよあるの女房の仕もつどきもお申よ。柳を
 けし、化粧のふもる。獨籠裏の服粉の作。近所よある
 てあつた。おのりうね大てのたつとあつて。係合は
 ちつ着の編とれ出さて。あつたふもあけいば。女房
 打あもさうりて。おのりもあてなす。おのりの
 むぐい。ひうり。びやう。なす。おのり。おのり
 てあつた。あつた。おのり。おのり。おのり。おのり
 おのり。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり
 ちてや。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり
 ちてや。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり

とつた。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり
 ちてや。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり
 ちてや。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり
 ちてや。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり
 ちてや。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり
 ちてや。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり
 ちてや。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり
 ちてや。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり
 ちてや。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり
 ちてや。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり
 ちてや。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり
 ちてや。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり
 ちてや。おのり。おのり。おのり。おのり。おのり

と下ちりふ葉あはりの建をんつぐかのよれた給
若ふ縁付しほしぐ。鞞ぐん屋のころゆぬあまふ
くあうさんとあまふ。まのらむねほるあふ
あつたるとごりから中しきて。一たふるん葉あ
しきれたまふ。や親等よりおねとあふむい
と。いあへくごりし。がれたる男のむらうといひそり
ふまのこのしむすれあふ。あまふ。あまふ。あ
あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あ
てたり。あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あ
あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あ

あんとあまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あ
あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あ
あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あ
あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あ
あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あ
あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あ
あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あ
あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あ
あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あ
あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あ
あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あまふ。あ

やうくともきよなるのこころにきくはかり。そのの
 ゐなましらせんといへどもいふにやまらぬとていふまゝに
 とあはれぬ神ミカドふあまりにてあひまひのまゝともか
 わらぬぐらへて何ぞかといふにかりやまらぬとて
 ようらふ。いひかゝりこころのまゝあやなむあついふまゝに
 ますとゆのまゝいふあやなりすまゝに。いふまゝ
 すまゝあやいふまゝに。いふまゝに。いふまゝに。

